

# 第9回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、作文や絵にくわしくかいてみよう

## 伊達佐重

だて・すけしげ  
1932年三笠市生まれ  
学芸大学札幌分校修了  
三笠市立教育研究所員  
空知教育研修センター講師

道内の小学生を対象に第九回夏休み自然観察記録コンクール（北海道自然保護協会、北海道新聞社、同野生生物基金主催）の募集を行った。七十五校から合わせて百五十七点の作品が寄せられた。入賞、佳作作品合わせて二十九点と学校賞二校が、昨年九月二十七日の審査会で決まり、十一月二日の道新夕刊で発表された。

全体の傾向としては、低・中学年に時間をかけて取り組んだ作品が多く見られたのに対し、高学年は迫力に欠けていると感じた。その違いがどこから生じてくるのか。

低・中学年の文や絵には、自然を見つめた感動を率直に大胆に表現されているので引きつける力が強い。だが高学年は、豊かな知識の蓄積に対応できる文章力や描画力が備わっていないとなると、その分だけ本に頼らざるを得なくなる。参考書からの引用が多くなると読み手に伝わる力が弱くなるからではないかと思った。

### ○入選者

#### 金賞

沢田 隼（江別市立上江別小学校三年）

おたまじゃくしとサンショウウオ

#### 銀賞（二点）

浜本 健汰（苫小牧市立豊川小学校四年）

ちやうの研究

竹中 諒（札幌市立信濃小学校六年）

しなのの自然と野鳥

#### 銅賞（六点）

大木 菜緒（札幌市立上野幌東小学校二年）

せみのうかかさつ

秋葉 蠟樹（函館市立東山小学校一年）

ぼくのアゲハチョウ

鈴木 天理（滝川市立東小学校三年）

集まれ昆虫／ぼくの出あった虫たち

鈴木 生（栗山町立栗山小学校四年）

ぼくのカミキリムシ

秋葉 凜樹（函館市立東山小学校四年）

自然の中で見つけた虫たち

小上 拓也（札幌市立あいの里西小学校五年）

アメンボの生態

### 佳作（二十点）

成ヶ沢雅人（函館市立本通小学校一年）

だいききなくわがた

小野 萌夏（札幌市立みずほ小学校一年）

夏休みにみつけた生き物

オリベラ 健（札幌市立発寒東小学校一年）

あさがおの花のかんさつ

曾根 静香（函館市立北美原小学校二年）

二〇〇二年夏「自然大発見」

松永 混平（帯広市立帯広小学校二年）

けんびきょうで見た花ふんしらべ

谷脇 克弥（札幌市立北野台小学校二年）

夏に出会ったこん虫や魚

西田ひとみ（福島町立福島小学校二年）

みやうたの海のなかまたち

辻野 太紀（登別市立若草小学校二年）

かぶと虫のかんさつにつき

鶴尾 美春（函館市立西小学校三年）

オオモンシロチョウになるまで

山本 一将（教育大付属函館小学校三年）

なるほど大発見・生きものの世界

学年別応募点数と入賞者数

学年	応募点数	入賞者数				
		金賞	銀賞	銅賞	佳作	計
1	22			2	3	5
2	28				5	5
3	34	1		1	7	9
4	21		1	2	3	6
5	41			1	1	2
6	11		1		1	2
計	157	1	2	6	20	29

審査委員

- 佐藤 浩三 (北海道自然保護協会会長)  
 佐藤 謙 (同 副会長)  
 伊達 佐重 (同 常務理事)  
 沢部 勝 (同 常務理事)  
 福地 郁子 (同 常務理事)  
 大久保フヨ (同 理事)  
 熊木 大仁 (同 専門委員)  
 鮫島博一郎 (自然環境研究室主宰)  
 谷 博 (北海道新聞野生生物基金理事・事務局長)

- 原島 弘典 (教育大付属札幌小学校三年)  
 二〇〇二年夏を一しょにすぎした生き物達  
 三島 夏帆 (追分町立追分小学校三年)  
 夏休みに出会ったトンボたち  
 松本 賢 (森町立森小学校三年)  
 カボチャの観察記録  
 坂 昌樹 (札幌市立緑丘小学校三年)  
 しげんのふしぎ  
 伊沢 咲弥 (知内町立知内小学校三年)  
 雲と天気  
 辻沢 莉穂 (旭川市立永山小学校四年)  
 とりの空き地  
 木下 陽介 (旭川市立啓明小学校四年)  
 夏休みの気温調べ  
 オリベラ美理央 (札幌市立登寒小学校四年)  
 カブトムシの観察

今回は描いた人の思いがそのまま伝わってくる  
 楽しい作品が多かったです。見たものを線で描い

審査を終えて

「楽しい絵を描こう」

審査委員長 伊達 佐重

学校賞

- 江別市立上江別小学校  
 函館市立東山小学校

- 北原 勝真 (札幌市立共栄小学校五年)  
 昆虫新聞  
 山崎 静香 (長沼町立長沼小学校六年)  
 身近な葉草

たり、言葉を選んで文にするむずかしさに取り組  
 む姿を思い浮かべながら作品を見せて頂きました。  
 金賞の沢田隼さんは、エゾサンショウウオとエ  
 ゾアカガエルを卵から育てて、成長のようすをわ  
 かりやすい絵で表現していました。  
 銀賞の浜本健汰さんは、前年までの蝶の幼虫か  
 ら成虫に切りかえて、色々な蝶のりん粉をけんび  
 鏡で調べました。まとめ方が上手です。竹中諒さ  
 んは、自分の住む信濃の小学校・公園・神社周辺  
 の生き物地図が独自の工夫ですし、資料の使い方  
 もたくみです。  
 銅賞では、出会った虫達をじっくりと時間をか  
 けて線で描く力が伸びた秋葉凜樹さん。細かいマ  
 ジックペンで形をとり、色鉛筆で効果的に仕上げ  
 た鈴木天理さん。カミキリ虫だけをとり上げて背  
 中の模様を大胆に表現し、けんび鏡でのぞいた虫  
 の各部分のスケッチがすばらしかった鈴木生さん。  
 庭の木の葉に産卵されたアゲハチョウの成長を一  
 か月見守った秋葉凜樹さん。夜、セミの羽化が始  
 まってからの約三時間の変化を、文とスケッチで  
 十二の場面にまとめた大木菜緒さん。前の秋葉凜  
 樹さんと共に今後を期待します。アメンボの生態  
 を図解入りで楽しくまとめた小上拓也さん。金賞  
 と肩をならべるくらいうまさでした。  
 ことしのコンクールで気になったのは、外国か  
 ら輸入した動物や昆虫の観察記録が応募作品の中  
 にあったことです。それも自然の一部には違いな  
 いのですが、自分が住む北海道内の観察記録であ  
 ってほしいと思います。

(二〇〇二・十一・二の道新より転載)